

人生を死ぬまで充実させて生きるには

はじめに

なにしろ、乾電池人生から脱して自家発電（ダイナモ）人生に切り替えることです！ それでは、人の人生のスタイルを乾電池と自家発電に分けてみよう。



部長や役員まで出世した⇒単1人生
課長まで行った ⇒単2人生
係長や主任まで行った ⇒単3人生

確かに、一概には割り切れないが、サラリーマン人生をその能力と活躍キャパシティーで4つに分類してみた。

中学校で終わって職人などの技術で生きてきた人もいるでしょうし、主任でサラリーマン人生を終えた人もいるでしょう。

でも気を悪くしないでくださいね。私は全く学歴主義者でも出世主義者でもありませんからね。

そもそも私は、若い頃は中卒でコックをやっていました。要は、サラリーマン社会は電池のようなもんだという例えですからね！

1、ダイナモってなんだ？

それでは乾電池人生と自家発電（ダイナモ）人生の違いをお話ししましょう。自家発電器（ダイナモ）とは、自分の努力と工夫で、最大の乾電池（単一）の二倍分でも三倍分でも、いや、何倍分もの仕事や社会活動ができると言う事です。見方によってはいくらでも大きくできる、可能性は青天井なので

す。



手動発電器ダイナモ（頑張って回せば壊れるまで発電可能）

2、使い捨て人生でいいのですか？

サラリーマンでは65歳、例え役員定年延長でも70歳位になれば、否が応でも会社を出て行かねばならないのです。強制的に仕事を取り上げられるのです。

そして大概の人は、定年時にはチャージされているエネルギーは底をついており、体中のDNAが「それなら、もういいや！」って伸びきってしまっているのです。だから気の毒な事に、特に一流企業で上級管理職で定年を迎えた人ほど、余期の人生が短いのです。

ましてや、仕事に専念し過ぎて、家庭や趣味や友人作りへ手が回らなかった人は特に悲劇です。いわば、生きながらにしてスクラップ化してしまっているのです。

妻や家族のみならず、社会の誰からも相手にしてもらえずに、実質的な世捨て人になってしまう、そして精神的な落胆から遠からず死んでしまう傾向があるのです。

それには生理学な根拠があるのです。どういう事かと言うと、サラリーマン社会で重要なポストで頑張っている間は、免疫力を高め、ホルモンを増産



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2018 年 12 月号》

し、癌をやっつけるキラー細胞が活躍しているという事実が証明されているのです。

だから、サラリーマンをやるにせよ、自営業をやるにせよ乾電池ではなく自家発電器（ダイナモ）になりなさいと言いたいのです。リーダーの尻について、与えられた枠の中で、決められた仕事をこなしているだけでは人生を棒に振りかねないと言いたい。

3、人生は一回きり

人生は一回限りなんです。世界一のお金持ちになり、かつ世界一の成功者だったアップル社の創業者スティーブ・ジョブズ氏は亡くなられる前にこんな言葉を残されましたね。

『Today is the first day of my last life.』
今日は残された私の人生の初日だ！

今日というこの一日を喰いの無いように思いっきり生きよう。その為には、今日こんなことをやっていて良いのだろうか？ 今やるべき重要な事が他にあるのではないだろうか？ 今日が人生の最後の日だと思って、思いっきり今日という日を、一番やるべき事をやって生き抜かねば悔いが残る。

これは人生の至言だと思う。実に重要な事を言い当てていますね。

繰り返しになりますが・・・、私達は大きな可能性を持って生まれてきたのだから、乾電池から脱して、自家発電、すなわち、頑張ればいくらでも発電し活躍できるダイナモ人生に、早いうちから切り替えなさいと言いたいのです。

しかし、お役御免でポストから降ろされたり、定年退職を迎えると、免疫機能が低下してしまうので、それまで抑えられていたガンの芽が吹いたり、糖尿病などの生活習慣病が雪崩を打ったように噴き出てくるのです。

だから、乾電池人生ではダメなんです！ 定年と共にエネルギー切れで燃え尽きてしまってはダメなんです。乾電池は耐用期間があるのです。耐用年数が来れば取り換えの効かない、一切機能しない死に体になってしまうのです。

くどいようですが、サラリーマン人生を歩むにせよ、自営や企業家をやるにせよ、若いうちにダイナモ人生に切り替えよと私は繰り返して言いたい。



4、どうしたらダイナモ人生にできるのだろう？

それではどのようにしてダイナモ人生に切り替えられるでしょうか？
ダイナモ人生とは、貴方が人生を生き活きと輝いて100歳まで生き抜く極意
と言えるでしょう。

ここで、私の知人でサラリーマン現役時代からダイナモ人生に切り替えて、
定年退職後の人生を、現役時代以上に謳歌している数名の実例をお教えしまし
ょう。

MW氏；彼は会社で化学薬品の爆発事故の責任を取らされて閑職に追いやられ
た。

暇をこれ幸いに、英語ディベートの団体に入り、得意の英語力をネイティブ並
にブラッシュアップしてしまったのです。

加えて、産業カウンセラーや臨床心理士の国家資格を取得したのです。
結局、責任を取らされて早期退職を余儀なくされましたが、ハローワークの正
規職員として、外国人担当として再就職し、その能力を買われて引っ張りだこ
なのです。

実に遣り甲斐のある毎日だと語っています。体の続く限り一生使ってもらえる
そうです。

TY氏；彼は一流損保会社で役員にまで上り詰め、莫大な額の退職金をもらい
ました。退職後は金銭的には悠々自適なのですが、持ち前の勤勉さとやる気を
活かして、エグゼクティブコーチの資格を取り、今では数社の企業のエグゼク
ティブコーチとして引っ張りだこなのです。

それは現役の40代の頃から、コーチを学び退職時には役員クラスのコーチ
としての実力を蓄えていたのです。御自身が一流企業の事業部長や役員を経験
していますから、クライアント企業からも大変信用されて、現役時代より、今
の方が却って遣り甲斐があると言っています。

また、サラリーマン現役時代に親交を深めた多くのお客様企業が彼を雇って
放さないというのです。それはどういう事かというと・・・、信用を積むこと
で、サラリーマン現役時代に将来の顧客を開拓できるという事です。人生の財
産になるのです。

AT氏；彼は私の親族ですが、うつ病を患って一時仕事に就けない時期があり
ました。病気で会社を辞め浪人していた時期に、頑張って宅建の資格を取った
のです。

今では埼玉の宅地造成地区で、小さいながら不動産会社を経営するまでになり
ました。元々いたIT企業時代の数倍もの実収入があるそうです。一時、病気



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2018 年 12 月号》

になったのが幸いしたと言っているのです。

TO氏；彼は米国の医薬業界トップ企業で研修部の部長として定年を迎えました。

大型退職金を手にして、定年後は金銭的には悠々自適なのですが、サラリーマンとしての現役時代に導入し社員教育に使っていたいくつかの最新のプログラムを応用して独自のプログラムをいくつか作り上げました。それを企業内研修や公開セミナーとして活用し、いわば引っ張りだこなので、一流大学の講師もしています。

この他にも何人もの実例を知っておりますが、ここで御紹介するのはこのくらいにして置きましょう。いずれにしても、主体性を持たずに、言われただけの仕事をこなすサラリーマン生活では定年後に何にも残らないと言う事です。僅かな退職金と年金に頼らざるを得ない生活になるのです。

ほとんどのサラリーマンは退職金は家のローンの残債に充ててしまいますから、年金しか収入は無くなります。その年金は月当たり平均20万円そこそこなのです。一流企業出身者でも企業年金を含めても、良くて月に4-50万円の収入なのです。

そうすると、おこずかいも無く、好きなお酒もたばこも自由には呑めなくなるのです。いつも底をついたお財布を持った、お金に困る悲惨な老後生活が待っているのです。

だから私は強くお勧めするのです。

サラリーマンならば、ただ単に会社に利用され、早期退職や定年と共にスクラップ化して放り出されるのではなく、逆に在職中に会社を思いっきり利用する事です。

そして、何時までいても、その会社では自己実現できないと思ったら、転職するなりして、こちらから会社を放り出すくらいの意気込みを持つべきです。

なぜそのような考えに至ったかと言えば・・・、その様な悲惨な老後を余儀なくされている友人が私の周りには余りにも多いのです。

そして、サラリーマンとしての雇用形態が今では大きく変貌している事に、いち早く気づかねばなりません。

おわりに

以前は東大や早稲田や慶応大のような一流大学を出て、上場企業のような一



《理事長のコーナー&プレゼン最前線 2018 年 12 月号》

流会社に入れば、どんなに出来ない人でも課長位までは出世できました。しかし今のサラリーマン社会はすっかり違ってきます。

例え、一流大学を出て入社したとしても、能力の無い人は係長にもなれません。それどころか、能力なしと判断されると45歳位で退職勧告をされたり、それでもそこそこ恵まれた人は関連会社などに移籍されたりします。

関連会社に移籍されれば、給料が下がるばかりではなく、やったこともない苦手な仕事につかされ、毎日好きでもない、いやな仕事をやらねばならないのです。技術畑や経理マンをやっていた者が、営業に回され、毎日毎日売り上げノルマに追いまくられる生活は地獄とも言えるのです。

サラリーマンとして定年まで過ごすなら、できるだけ出世する事、そして在任中に定年後もしっかり食えるだけの下準備、自己啓発や資格取得や人脈造りをする事です。

そして最も理想なのは、定年後ないしは熟年老後にも一死死ぬ迄働ける、そう！自らが一番やりたかった仕事について自己実現する事です。

その為には、30代から考え方を切り替える事です。すなわち電池人生からダイナモ人生に切り替えること、そのマインドチェンジと成功する習慣（ダイナモ人生）を身に付けることです。

終わり

次は2019年1月15日号に続きます。